

ペトロとヨハネは捕えられ(使徒 4:1~3)、権威者や権力者が雁首並べて(4:5~6)脅しつけている(4:7)。

ペトロらは脅しに屈するどころか、自分が癒した男(3:6~8)を示して、「この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものだ(4:10)」と、彼らが一番聞きたくないことを堂々と語った。

イエスを殺し、弟子たちの活動を叩き潰すつもりだったが、教えはかえって広がった(4:4)。

権威者は、二人の大胆な態度を見て「無学な普通の人であることに驚いた(4:13)」。

知恵ある者は反駁し、戦士は勇気を見せる。無学な普通の人には脅しに屈するのが常だが、漁師だった無学な使徒らはどうもそうならぬ。つまり知性や度胸で立ち向かっているのではないのだ。

知性と度胸が充分だったパウロの場合は、それらがことごとく打ち砕かれ、虚しく空っぽにされねばならなかった(9:8~9)。

想像を膨らませると、歯ざしりし、地団太踏んでいる権威者らの姿が思い浮かぶ(4:14,16,21)。

彼らは二人の使徒を、いっそう脅しつける口調で(4:17)、「決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した(4:18)」。するとどうだろう。

「しかし、ペトロとヨハネは答えた。〔神に従わないであなたがたには従うことが、神の前に正しいかどうか、考えよ〕(4:19)」と、まるで動じない。

「無学で普通の(4:13)」人間なのに、使徒らの脅しに屈しない姿勢はどこで身に着けたのか。信仰としては人間ではなく神に従うつもりだが(4:19)、それを実際に為さしめているのは聖霊の力(4:8)。キリストに従う私たちの決意もまた、どんな状況であっても聖霊によって驚くべき力とされるだろう。

「聖霊に満たされる(4:8)」と、どうなるのであろうか。霊的な力に憑依され、理性を放棄して異言でも語るのか、と思ったら大間違い。むしろ逆ではないか。

ペトロは冷静で、的確に(4:9~10)、「無学な普通の人」ではない構えで堂々と語った。ペトロはもはや、素朴にズッコケていた弟子ではない。

二人の使徒の姿を思い巡らせていると、あたかもイエスが語っているかのような気がしてくる。

「聖霊に満たされる」とは、こういうことか。かつてイエスは、弟子たちと「一緒に」生きていた。しかし今やイエスが、弟子「自身として」生きている。聖霊に満たされるとは、キリストが私の内で、私自身として呼吸し、私という器によって働かれること。

ペトロは聖霊に満たされ、危機のただ中に、キリストがペトロから現れ出た。キリストと「一緒に居て」ではなく、キリストを生きている。

「彼らはあなたに戦いを挑むが、勝つことはできない。わたしがあなたと共にいて、救い出すと主は言われた(エレミヤ 1:19)」。「彼ら」とは、権力ある王や高官、権威ある祭司、そして民衆(1:18)。

そもそも預言者として召し出された若いエレミヤは、初めから腰が引けていたし(1:6)、預言の裏りが虚しく、召命から逃れたがっている(15:10)。

これに対して神は「あなたは青銅の城壁、わたしが共にいて」という言葉をくり返し(1:18~19,15:20)、空っぽになりうる者を用いる。私たちがそうした器ではないか。

私たちは空っぽにされて、キリストの途方もない愛と、命と、創造を、この身と、この魂に受ける。



#### 《おまけのひとこと》

基督がそのまま私であるならば 基即是我 我即是基 般若心経のような漢文表記となるだろう  
いや そうではない 基一如我とでも記そうか 別々ではないが同じではない 一つの如くなのだ